

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290101957		
法人名	株式会社 アシスト		
事業所名	グループホームつつじが丘しのめ		
所在地	長崎市つつじが丘4丁目15-1		
自己評価作成日	令和7年1月16日	評価結果市町村受理日	令和7年4月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和 7年 2月 17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な環境の下、利用者様の思いを大切に生活の中で楽しみを作り、笑顔で過ごしていただく事
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、法人理念にある「幸福をアシストする」を主軸に、生活支援目標に沿い、利用者一人ひとりに合わせた最適な環境づくりや医療連携体制を強みとしている。得意な編み物を活かしてミサンガを作って職員にプレゼントしたり、花に囲まれた生活を継続できるようプランターの花の水やりを日課にする等、利用者が笑顔で暮らしている様子が窺える。また、全員での初詣や個別の買い物、外食を企画するな積極的にリフレッシュできる機会を作るよう努めている。家族には、毎月の事業所だよりやInstagramを配信している他、運営推進会議資料の全家族送付やLINE等で繋がり、利用者の状況や家族の要望など双方向で発信し、安心感と信頼感を強めている。職員間で都度話し合い良好なコミュニケーションにより、明るくゆとりのある支援に繋げている。利用者を敬い、理念の具現化に真摯に取り組んでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼、夕礼と業務の引き継ぎを行うと同時に、毎月支援目標を決め職員同士で唱和して業務を開始している	法人の理念に沿った生活支援目標を毎月設定し唱和し、月1回の職員会議で施設長による講話を通じて理念の浸透を図っている。職員は理念にある「幸福をアシストする」を軸に、木製ベッドからリクライニングベッドへの移行やガーデニングスペースの設置等、最適な環境を作るとともに、本人本位の支援に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ゴミステーションの掃除 隣接宅への訪問、来訪 地域清掃への参加 散歩などでのコミュニケーションの実施	自治会に加入し回覧板が届いており、当番制の地区のゴミステーションの清掃を職員が担っている。施設長が地域ケア会議に参加している他、隣接宅を訪問して草取りを手伝っている。また、地域住民が来訪し、差し入れが届くこともある。利用者と事業所周辺を散歩する際は挨拶を交わすなど日常的に交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括等から相談があれば対応し、認知症の理解と促進に努めている			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部施設の状況を確認したり、家族、利用者様の希望を聞き、なるべく対応できるように心がけている	事業所内でのコロナ感染のため第2回のみを書面会議で、他の回は全て規定通り2ヶ月ごとに対面会議を実施している。行政、地域住民代表、家族、薬剤師等が出席し、事業所の活動内容や各種委員会報告などを詳細に伝え、意見交換を行いサービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護対象者など、不明な点があれば相談し施設での生活が継続できるように対応している	行政からメール等の連絡が届いており、情報を共有している。市の担当課の職員が定期的に訪問している他、運営における手続きや不明な点は、電話や直接窓口に出向き問い合わせしている。日頃から事業所の取組を積極的に伝え、協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者含め施設内外の研修に参加し、身体拘束の理解と身体拘束しないケアに取り組んでいる	指針を整備し身体拘束虐待防止委員会を3ヶ月に1回開いている。また、年2回は内部研修を開催しており、不適切なケアについてグループワークを行い、食事中の言葉掛けなど日々の支援の中で、行動を抑制するような言葉掛けを行っていないかを検討するなど、意識を高めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内外の研修に参加し、理解を深めたり、職員間で声かけや支援方法をその都度検討している		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、利用者様で成年後見制度を利用している方はいないが管理者も含め研修に参加し職員と共有する機会を確保している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容書類に不明な点がないかその都度確認し、介護保険などの制度もその都度分かりやすく説明している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見要望があれば職員と共有し反映できるように努めている。面会などで家族と話す機会もある	事業所では苦情受付や意見箱を設置し、面会や電話、LINE等で対応している。また、しのめホットラインを家族へ送付し、利用者の様子を伝えることで、家族が思いを表しやすい雰囲気づくりに努めている。家族の面会や外出の機会が増えており、職員が家族の意向を汲み、支援の向上に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回職員会議を行い職員の意見などを聞く機会を設けている。介護職各自に目標をもってもらい日々業務に取り組んでいただいている	職員は、毎月の職員会議に限らず、意見や提案を業務に活かしている。施設長も、面談やLINEを活用し、職員の意見を聞く機会を設けている。職員の意見から、シフトや希望休の調整、入浴日など業務内容を見直しを行う他、ベッドや車両購入など環境改善を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修への参加 介護記録のICT化 介護ベッド導入（環境整備）		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に外部研修の案内を提示し、参加を促している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	サテライト事業所にて本体事業所と合同で外部研修を受講したり、行事等で一緒に交流する機会を確保している		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境を把握の上、面談を実施し利用者様の思いや家族の思いを傾聴しその情報を会議などで共有し、入居後に安心して生活ができるように配慮している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前より適宜、電話や面談にて困りごとや不安なことを傾聴し対応している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	生活上で必要なサービス、利用者様の思いをくみとりサービス内容に明記して支援するように対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の思いをくみとり、支援を実践している		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の協力を得ながら、利用者様が安心して生活できるように配慮している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会など、電話のやり取り、広報誌などを配布する	事業所では、受入れ前の情報シートをもとに、本人の馴染みや生活歴を把握し、職員間で共有することで本人に合った支援に繋げている。家族や知人の面会も自由で、年賀状を書いたり、職員と馴染みの場所へ買い物に出掛ける支援も行っている。花に囲まれた暮らしや手芸など、在宅時に近い馴染みの日常を支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず 利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努 めている	集団での体操や行事の実施 個別に合わせた家事手伝いの実施 趣味活動を取り組んでいただく		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性 を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過を フォローし、相談や支援に努めている	相談に応じたり、継続して地域住民の一人 として運営推進会議に参加していただいで いる 情報共有を行っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努 めている。困難な場合は、本人本位に検討している	体調、表情、行動を観察し、変化に気付ける ように関わりを密にし、コミュニケーションを 取り、思いを家族に伝えるように心がけてい る	職員は利用者寄り添い、目線を合わせた対話 に努めている。会話が困難な場合も、本人のベ ースに配慮し、丁寧にコミュニケーションを図 っている。ひもときシートを活用し情報共有 を図り、朝昼はゆっくり部屋で過ごしたいと いう希望や、好きな飲み物を選ぶことなど、 利用者の個性を尊重した支援を実践してい る。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、こ れまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の面談で家族より利用者様の情報を 聞き取り、入所後は利用者様との会話を通 して生活面の把握に努める		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等 の現状の把握に努めている	職員間で情報共有を行い、生活意欲につな がるような支援を心掛けている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方につい て、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの 意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作 成している	担当職員と支援に対しての問題や改善がな いか確認し、モニタリングを実施している	毎月、担当職員が支援評価表に変化内容、要 因、対応を記載し、達成状況を評価している。その 後、計画作成担当者が総括して計画を見直してい る。家族からの要望は、面会時や電話等で聞き取 り介護計画に反映し、同意を得ている。ただし、一 部のケース記録に、利用者の意向や様子を十分 に記していない箇所がある。	本人の背景を把握し、記録に残すことで 職員が情報を共有することが期待できる。 そのためには、利用者の意向や様子を詳 細に記録することが必要であり、今後の 検討、取組が望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別 記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介 護計画の見直しに活かしている	朝、夕の申し送りにて利用者様の状態を把 握し、必要な場合はSNSで共有している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者のみではなく家族や取り巻く環境もあり、出来る事と出来ない事がある		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の美容（訪問）を利用しており、定期的に入居者様の散髪を行っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週、往診医師による体調確認の実施 必要時は他科受診も紹介状にて受診対応することもある	全利用者は協力医をかかりつけ医とし、定期的な訪問診療を受けている。従来のかかりつけ医への通院も可能で原則として家族同行と定め、職員同行の場合は家族が通院費用を支払っている。系列の訪問看護事業所と24時間医療連携を行い、毎週訪問を実施し、情報共有シートを活用している。夜間緊急時等も連携して支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制にて必要時、医療相談や体調などの観察、助言をいただく 24時間のオンコール体制		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との情報共有のため、電話でのやり取り、面談を必ず実施している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時の意向確認の実施 主治医と家族との話し合いの元、多職種で方針を共有し対応している	重度化した場合・看取りに関する指針、医療ケアについての意向確認書、終末期の看取りケアについての質問を、利用開始時に家族へ説明し同意を得ている。これまでに事例はないが、支援できる体制は整えている。看取り研修を実施し、職員の不安軽減、共通理解を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時のマニュアルを元に訓練を行い研修を実施している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	毎月、定期的に避難、消火、通報などの訓練を実施している	年間で月ごとに日中・夜間想定自主訓練を行っており、2回の総合避難訓練の内1回は消防署立会い訓練を実施している。また、非常持ち出し品や備品等を整備している。ただし、BCPを作成し、内部研修を実施しているものの、大雨等自然災害時の避難訓練は行っていない。	自然災害を想定した避難訓練を実施することで、現実的に想定される災害時の対応力と職員、利用者の安全確保について検討に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様に応じた声掛けの実践を行い居室やトイレなどに入る場合にはノックをする	職員は利用者の個性を尊重し、目線を合わせた声掛けや介護を実践している。職員会議では言葉遣いや接し方について意見交換を行い、失敗があっても、さりげない対応を心掛けている。トイレのパッド管理にも細心の注意を払っている。個人情報事は事務所で適切に管理し、職員への守秘義務の周知徹底にも努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	目標として意識して取り組んでいる		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしさを大切に利用者様のペースで過ごしていただく事を共通の認識として行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わせた衣類調整や必要時は着替えの介助 清潔保持に努め気持ちよく過ごしていただく		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	皿や盛り付けの工夫 温度管理にちゅういして提供している 家事手伝いが可能な方は職員と一緒に取り組まれている	食事は、外部配食業者を活用している。利用者の咀嚼や嚥下に合わせた盛付を検討し、小皿を活用した提供方法で、食事をゆっくり味わうことができるよう工夫している。利用者も一緒に盛付などの手伝っている。誕生日にはリクエストメニュー、季節行事ではサンドイッチ作り、忘年会の特別弁当など企画があり、皆で食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調に応じた水分量の確保 食事以外での捕食の提供 食材の形態変更の実施		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後対応しており自力で困難な方は一部介助を行ったり仕上げを職員で対応している 歯科に定期的に訪問診療依頼		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄時、定時での対応や声掛けを実践 日中、夜間と個々に合った介護材料を使用している	職員は排泄支援の際、排泄チェック表に状況を記録している。声掛けのタイミングや方法を個々に合わせるよう、職員会議で支援内容を検討しており、自立を見守りつつ、排便状況やパッドのサイズ、尿量にも配慮している。失敗を減らし、本人の自信に繋がるよう、利用者の様子を見ながら、声掛けしてトイレに誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動と水分量の確認を行い、必要時は内服調整を行い予防に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様の体調に合わせての入浴支援 曜日を変更したり、入浴回数を増やすこともある	水曜と日曜以外に入浴準備を行っている。週2回を目安に声掛けし、希望に沿って午後からの対応もある。リフト浴を活用して浴槽に入れるよう支援しており、皮膚が弱い利用者には、特に配慮している。菖蒲湯やゆず湯など季節の入浴も本人の好みに合わせて提供している。入浴を楽しみ、寛ぎの時間になるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動時間を確保し、居室で横になる時間も作るなど、対応している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の文献にて介護職員は情報収集し副作用や変化がある場合には看護師、主治医へ相談している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の生活歴を理解した上で役割や楽しみを作ってもらえるように対応している		

グループホームつつしが丘しのめ

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個人の要望を確認し、外出目的を理解し、家族へ相談し、個別で対応している	普段は事業所周辺の散歩や、整備された庭で花を楽しみながら外気浴を楽しんでいる。桜やツツジ見物、買い物ドライブ、系列グループホームへの訪問など、日常と違った外出機会を設けている。誕生日の外出や家族と合流する企画など、利用者の希望に沿った支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	立替にて（施設）利用者様に必要な物を一緒に購入へ出かけたり職員が代わりに購入するなどして対応している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様で電話を使用できる方が少ないが、施設の電話を使用していただき家族とお話をする機会を確保している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール（食堂）に光が差し込む様になっており明るい雰囲気作りをしている 季節の花や利用者様の作成した物や写真を掲示している	採光の良いリビングでは、利用者がソファでぬり絵をしたり、職員と談話したりして寛いでいる。テラスのガーデニングコーナーでは、プランターの花の水やりを日課としている人もいる。行事の折に撮影した集合写真や職員が作成した手作りカレンダーが室内を彩っている。温湿度を適切に保ち、毎日掃除を行い環境整備に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事席を工夫 TVが見える位置へ変更 ソファで過ごしていただくなど		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	身体状況を考え、ベッドの配置を整え、使い慣れたタンス（家具）の使用、仏壇、遺影、写真（家族）などを居室に配置している	馴染みの小型の筆筒や家族写真、位牌、時計などを配置している。自宅の鍵を手元に持ち過したり、エレベーターがある環境の中で、階段を利用し自由に移動するなど思い思いに過ごしている。木製ベッドからリクライニングベッドに移行している他、転倒防止の敷きマット等、快適な居室での暮らしを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体状況に応じ、介護ベッド、柵、導入車椅子の選定を行う ホール内の環境整備を行う		